

配送業務に“正価”は存在するの？

～ドライバーが辞めやすい仕事、長く続く仕事の特徴～

どう見積もりますか？

我々の考える正価とは、荷物を運ぶドライバーが「長く続けていける」仕事の内容と報酬です。しかし、これを見極めるのはとても困難です。なぜなら、ドライバーは「人」であり、それぞれの得意不得意や、生活環境が異なります。そのため、あるドライバーにとっての最適な仕事は、他のドライバーにとっては不適切な仕事であったりもするのです。

例として、こんな2つの仕事を比べてみましょう。一方は早朝5:00開始で昼12:00まで、1日平均45km走る食パン配送のお仕事。もう一方は13:00から20:00まで、1日平均20kmだけれど、バッテリーやタイヤなどの重量物を運ぶお仕事。この2つの配送業務の“値段”は、あなたならどう見積もりますか？



私は走るのが好きだけど、重いものを持つのは苦手です。配送件数は少なく、広いエリアを1日かけて100kmくらい走る仕事がいいな。

私は几帳面なので細かい作業が得意です。出発前の付帯作業の割合が多く、配送距離は短い仕事をやりたいです。



絶対な“正価”は存在しません。

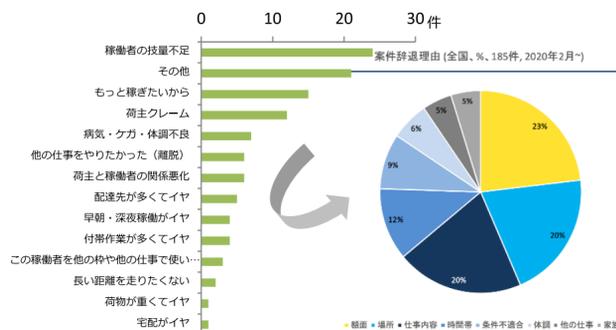
では、どのように“長く続けていける仕事”の内容と報酬をきめればいいでしょう？

私たちは、全国のありとあらゆる業種業態の仕事について、ドライバーが辞めやすい仕事とそうでない仕事を、3つの観点から分析しました。

辞める理由？

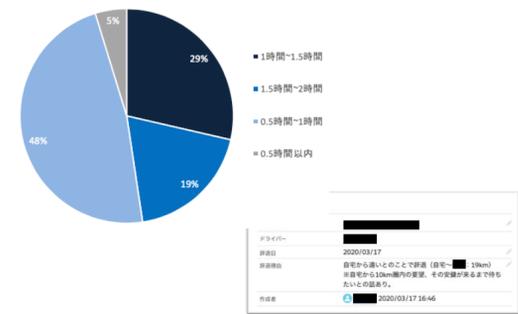
ドライバーが仕事を受けるか受けないかを決定するポイントの63%が、「移動時間(20%)」、「金額(23%)」、「仕事内容(20%)」で占められています。この3点を分析の軸として、「長く続けていける仕事」の基準を深掘りしていきます！

【打診・稼働している配送案件を辞退、もしくは廃業を決めたドライバーに対しヒアリングを行い、その理由を集計したものの。(2020年2月～2020年5月、データ数 185件)】



移動時間

自宅・稼働先間の車移動による所要時間割合(%, 時間)



半分以上のドライバーが仕事の受託を判断するとき、自宅から稼働場所までの移動時間が60分以内であること重視しています。実際に、ドライバーが辞めた様々な首都圏の仕事について、ドライバーの住所から稼働場所までの距離を集計したところ、平均で38kmほどありました。

例えば首都圏は、渋滞が起こりやすい朝方には10kmの移動に1時間ほどかかることも珍しくありません。こうした現実と照らし合わせると、38kmという移動距離を敬遠するのも頷けますね。

金額

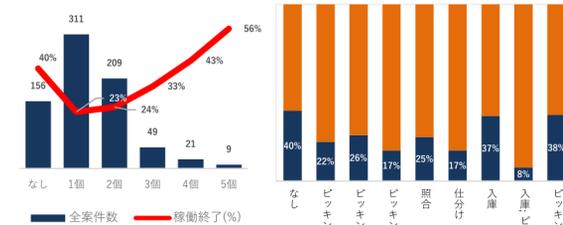
エリア/業種	稼働終了	配車請求	原価(配車請求)	単価(稼働終了)
九州	1,433	1,361	-73	
卸売業、小売業	1,450	1,384	-66	
不動産業、物品賃貸業	1,417	1,337	-79	
卸売業、小売業	1,377	1,385	7	
医療・福祉	1,490	1,705	215	
卸売業、小売業	1,490	1,705	215	
中国	1,472	1,550	78	
卸売業、小売業	1,479	1,611	132	
製造業	1,465	1,488	24	
飲食	1,770	1,832	62	
サービス業(他に分類されないもの)	1,617	1,592	-24	
医療、福祉	1,670	2,118	448	
運輸業、郵便業	1,580	1,513	-67	
卸売業、小売業	1,505	1,802	297	
宿泊業、飲食サービス業	2,160	2,138	-22	
製造業	1,738	1,768	30	
電気	1,452	1,552	100	
医療、福祉	1,417	1,351	-66	
運輸業、郵便業	1,405	1,529	123	
卸売業、小売業	1,534	1,702	167	
製造業	1,451	1,625	174	
卸売業、小売業	1,512	1,562	50	
運輸業、郵便業	1,515	1,532	17	
卸売業、小売業	1,509	1,472	-37	
製造業・電気	1,577	1,871	294	
卸売業、小売業	1,577	1,971	394	

ドライバーが辞めやすい仕事と、辞めにくい仕事の時間あたりの平均単価は、前者が1,510円、後者が1,607円(+97円)でした。その差が一番大きかったのが、東京の「医療・福祉」で、448円。次は北関東・新潟の「卸売、小売業」で394円、そして大阪・和歌山の「卸売業・小売業」の215円でした。

ところが一方で、辞めやすい仕事のほうが、単価が高かった例もあります。その1位は九州の不動産業の79円、2位が東京のサービス業の74円、3位が東北の医療と九州の卸売業の66円です。

作業内容

全案件数と付帯作業個数カテゴリー別の稼働終了割合(%, 件数)



付帯作業の個数と内容はドライバーが仕事を辞退する要素となるのでしょうか？結論は、作業は2種類を超えると終了率に関連するが、作業がないからといって継続率が上がるわけではないということです。さらに付帯作業の内容は継続率に相関がありません。付帯作業のある案件すべての平均辞退率は26%です。「入庫」と「ピッキング; 梱包」はこの平均を10%ほど上回っていますが、内容が近似している「入庫; ピッキング」の辞退率が8%と、平均を16%も下回って最小です。この点から、内容が辞退率に関連があるとは結論づけにくくなります。

ドライバーが長く続ける仕事の特徴は、稼働場所までの移動時間が60分以内、時給換算1,600円以上、付帯作業が2件程度の仕事だと言えます。

しかし、これらの条件はドライバーのスキルや経験、その他の個人の事情を加味していません。よって、この条件を満たしているから「正価」でよい仕事である、あるいは満たしていないから悪い仕事ということはいけません。